

ユニバーサルデザインとは

- 年齢、性別、国籍、個人の能力にかかわらず、はじめからできるだけ多くの人利用可能なように利用者本位、人間本位の考え方にたって快適な環境をデザインすることです。

- 米国ノースカロライナ州立大学のロナルド・メイス（建築家・デザイナー）らが提唱したことが始まりといわれています。

- バリアフリーとどこが違うのでしょうか？
どちらも「すべての人の平等な社会参加の実現」というゴールを目指しますが、ユニバーサルデザインは、バリアフリーを包含し、発展させた考え方といえます。

- ユニバーサルデザインとは何か、を説明するにあたっては、ロナルド・メイスらによってまとめられた7つの原則がよく用いられます。

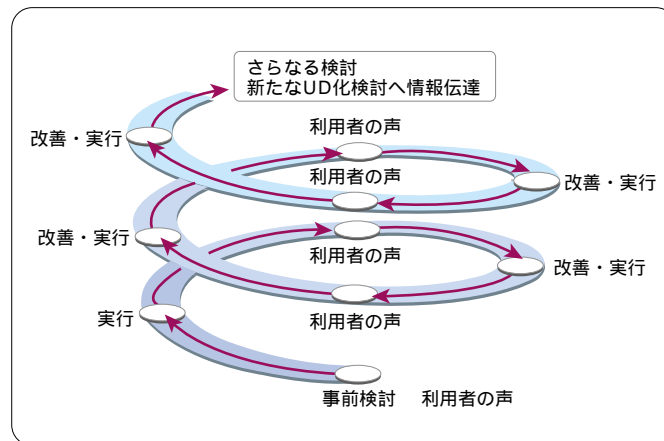
ユニバーサルデザインの7原則

- ① だれにも公平に利用できること（公平性の原則）
- ② 利用者に応じた使い方ができること（柔軟性の原則）
- ③ 使い方が簡単ですぐわかること（単純性と直感性の原則）
- ④ 使い方を間違えても、重大な結果にならないこと（安全性の原則）
- ⑤ 必要な情報がすぐ理解できること（認知性の原則）
- ⑥ 無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使えること（効率性の原則）
- ⑦ 利用者に応じたアクセスのしやすさと十分な空間が確保されていること（快適性の原則）

● ユニバーサルデザインはプロセス（過程）を重視します。

プロセスを重視するということは・・・

- 計画の策定から実行までの各段階に利用者の声が反映されていること
- 繰り返しによりデザインが進化していくこと
- 結果だけでなく、改善の積み重ねを重視すること
- 改善を継続していくために、多様な人の参画がある「仕組みづくり」が重要であることなど、その結果だけではなく、改善の積み重ねを大切にすることです。



(継続的改善を生み出すための「仕組みづくり」のイメージ図)

ユニバーサルデザインを基本とした福祉のまちづくり

東京都は・・・

- はじめから「人」をまちづくりの中心に据えることにより、多様な生き方を尊重し、「より安全に」「より安心して」「より快適に」暮らすことのできるような福祉のまちづくりを進め、
 - 一人ひとりの個性が大切にされる社会
 - だれもが、安心して住み、暮らし続けることのできる社会
 - だれもが、自由に移動でき、積極的に社会参加のできる社会の実現を目指していきます。

ユニバーサルデザインガイドライン

- ユニバーサルデザインの考え方を基本とした「福祉のまちづくり」の一層の推進を図るため、建築物や公共交通の整備に取り組む際の「目安」を示したユニバーサルデザインガイドラインを作成しました。

ユニバーサルデザインは、より使いやすいデザインを追及していく取組であるため、この「目安」も固定的なものではありません。